



防災に関するグローバルな取り組み：
- UNISDR と兵庫行動枠組
- 防災・減災とジェンダーに関する議論

2013年12月6日
男女共同参画会議 監視専門調査会
防災・復興ワーキング・グループ
@内閣府 東京

松岡由季
UNISDR駐日事務所 代表
国連国際防災戦略事務局
(UNISDR)



概要

I 災害による世界的な被害

II UNISDRと兵庫行動枠組

III HFAとジェンダー分野

IV 国際防災の日

V 国連防災世界会議 2015



I 災害による世界的な被害

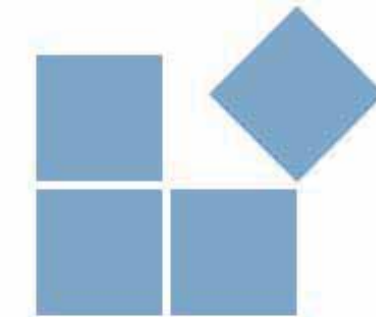


災害による被害(1992-2012)



4.4
BILLION
AFFECTED

Roughly 64% of the world's population¹.



\$2.0
TRILLION
DAMAGE (USD)

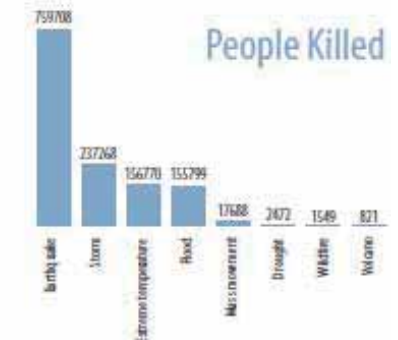
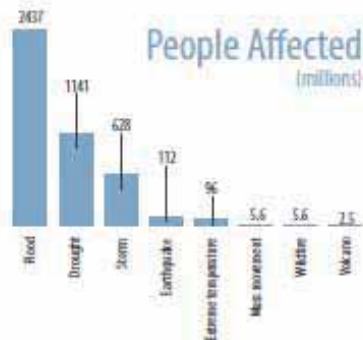
Approximately 25 years of total Overseas Development Aid².



1.3
MILLION
KILLED

Comparable to over 1500 airplane³ crashes.

Impact by disasters



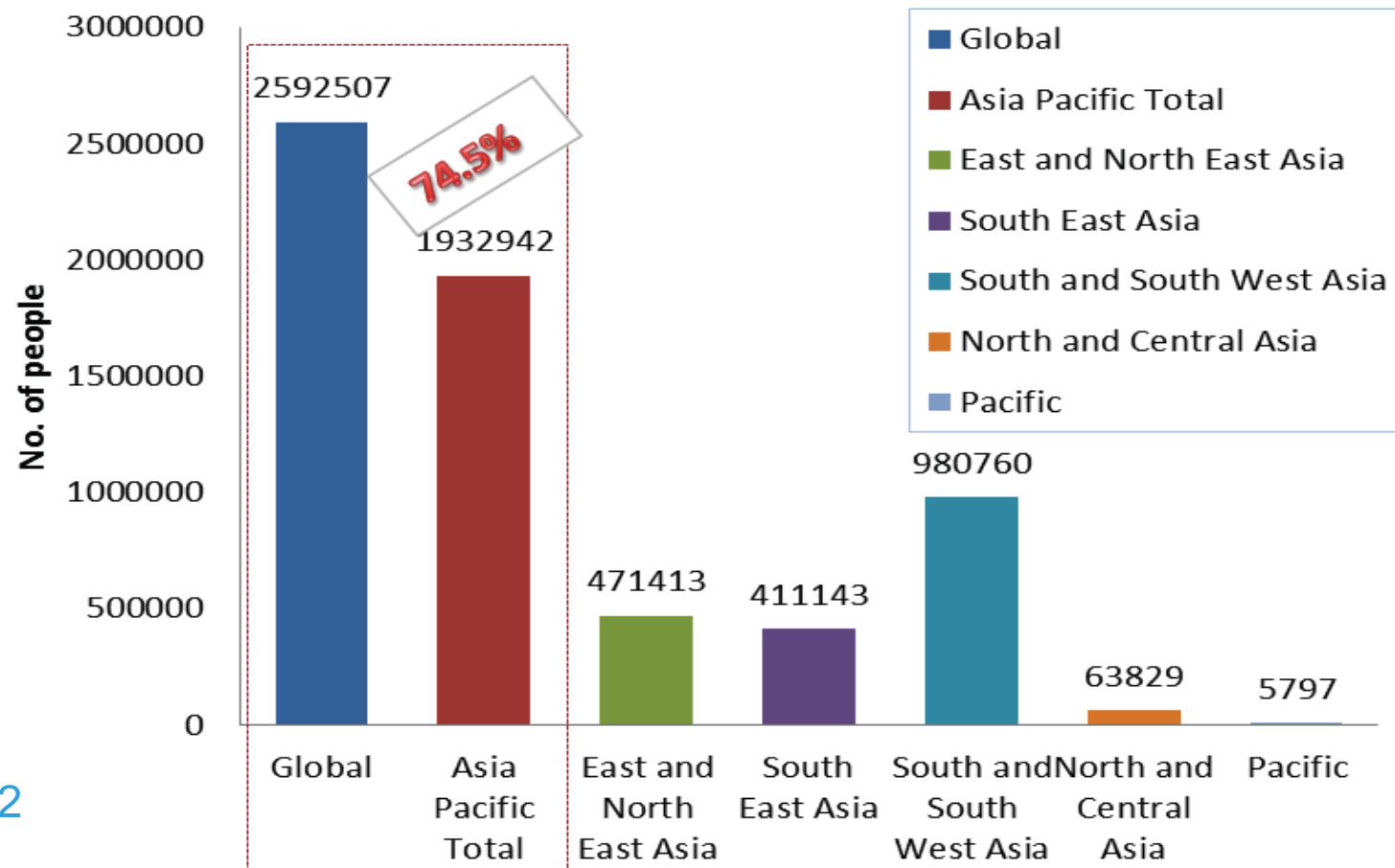
Impact by top 10 countries



As of June 2012
Input for Rio+20

1970年～2011年に発生した災害による 死亡者数の75%がアジア太平洋地域

No. of people killed in disasters* (1970-2011)





持続可能な開発・社会の構築には、
災害に強い国、コミュニティー作り、
防災、減災の視点は不可欠



持続可能な社会
のための6原則



災害は“自然”ではない - Disasters are NOT natural

自然ハザード・自然事象イコール災害ではない。
災害への脆弱性を増加させ、被害を増大させる
多くの要因がある。

社会的、経済的要因：貧困、都市計画の不備、
急速な都市化、知識・意識不足、組織的対応能力

物理的要因：土地利用計画の不備、
インフラ整備の不備（災害の影響、防災対策考慮）

環境的要因：環境悪化、生態系の悪化（沿岸地域、
河川流域、湿地滞など）



自然現象
気候事象

脆弱性

防災・減災(DRR)とは？

災害が起こる前に

災害に対する脆弱性・暴露など災害リスクの軽減を目的とした対策を講じる

持続可能な社会・開発実現の観点から、自然ハザードによる悪影響を防ぐ、または最小限にすることを目的とした対策を講じる

災害から復興する過程においても将来の災害へのリスク軽減を図りより強靱な社会の構築を目指す

Natural hazard

X

Vulnerability
& Exposure

=

Disaster Risk



II UNISDRと兵庫行動枠組



国連国際防災戦略 (UNISDR)

国連国際防災戦略 (UNISDR) は「国際防災の10年 (1990-1999)」を継承する国連の活動として、2000年に国連総会により設立。

(国連総会決議より抜粋)

ISDRは、自然災害による人的、社会的、経済的、環境的な損失の減少、災害リスクの軽減のためのグローバルな枠組・戦略・政策を提言することを目的としている。また、それを推進するためのグローバルなパートナーシップ構築を促進・強化し、持続可能な開発に不可欠な要素として、防災の重要性に対する認識を高め、災害に強い国・コミュニティの構築を目指す。

国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)

本部: スイス ジュネーブ

地域・サブ地域事務所など:

タイ(バンコク)、日本(神戸)、フィジー(スバ)、カザフスタン(アルマティ)、エジプト(カイロ)、ケニア(ナイロビ)、パナマ、米国(ニューヨーク)、ドイツ(ボン)、ベルギー(ブリュッセル)、韓国(インチョン)

UNISDRの主な役割

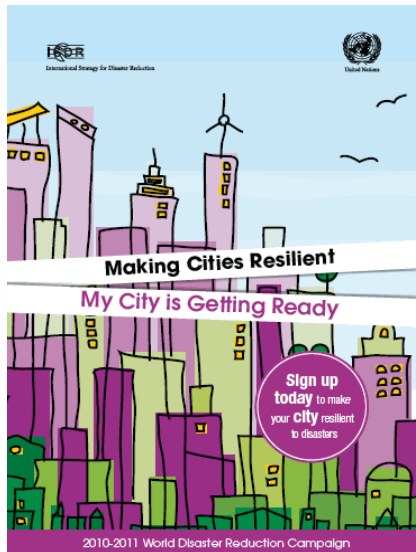
1. **Coordinate:** 防災に関する協力の調整・政策提言

2. **Advocate:** アドヴォカシー

防災、減災の重要性を高める、また防災文化構築のための意識高揚

3. **Inform:** 防災に関する知識や情報の発信

国連防災白書、PreventionWeb





国際防災分野の発展

1989年 IDNDR (国連国際防災の10年)の発足1990-1999

1994年 第1回国連防災世界会議 「横浜戦略」を採択

2000年 国連国際防災戦略 (UNISDR)の設立(国連総会決議)

2002年 ヨハネスブルグ実施計画

持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD) にて採択

2005年 第2回国連防災世界会議(WCDR) - 兵庫行動枠組 2005-2015を採択

2007年 防災グローバル・プラットフォーム 第一回会合

2009年 防災グローバル・プラットフォーム 第二回会合と国連防災白書2009
(2010年HFA中間レビュー)

2011年 防災グローバル・プラットフォーム 第三回会合と国連防災白書2011

2013年 防災グローバル・プラットフォーム 第四回会合と国連防災白書2013
兵庫行動枠組実施の推進、進捗状況のモニタリング、情報共有、知見、
経験を共有するフォーラム

2015年3月 第3回国連防災世界会議 (日本にて開催)

HFAを継承する防災・減災に関する国際的な枠組の採択

国連防災世界会議 2005年1月

「兵庫行動枠組2005-2015: 災害に強い国・コミュニティの構築」

コミュニティ・国の災害による人命及び社会的、経済的、環境的資産の損失の大幅な軽減を目指す

□ 3つの戦略目標

- i. 持続可能な開発の取組みに減災の観点をより効果的に取り入れる
- ii. 全てのレベル、特に、コミュニティレベルで防災体制を整備し、能力を向上する
- iii. 緊急対応や復旧・復興段階においてリスク軽減の手法を体系的に取り入れる

□ 5つの優先行動分野

優先行動1: ガバナンス(制度的基盤)

優先行動2: 災害リスクの特定・早期警報

優先行動3: 防災知識・教育

優先行動4: 潜在的なリスク要因を軽減

優先行動5: 効果的な対応のための備え、事前準備の強化



「兵庫行動枠組2005-2015: 災害に強い国・コミュニティの構築」

Expected Outcome

The substantial reduction of disaster losses, in lives and in the social, economic and environmental assets of communities and countries.

Strategic Goals

The integration of disaster risk reduction into sustainable development policies and planning.

The development and strengthening of institutions, mechanisms and capacities to build resilience to hazards.

The systematic incorporation of risk reduction approaches into the implementation of emergency preparedness, response and recovery programmes.

Priorities for Action

1. Ensure that disaster risk reduction (DRR) is a national and a local priority with a strong institutional basis for implementation.

- DRR institutional mechanisms (national platforms); designated responsibilities;
- DRR part of development policies and planning, sector wise and multisector;
- Legislation to support DRR;
- Decentralisation of responsibilities and resources;
- Assessment of human resources and capacities;
- Foster political commitment;
- Community participation.

2. Identify, assess and monitor disaster risks and enhance early warning.

- Risk assessments and maps, multi-risk; elaboration and dissemination;
- Indicators on DRR and vulnerability;
- Data and statistical loss information;
- Early warning: people centered; information systems; public policy;
- Scientific and technological development; data sharing, space-based earth observation, climate modeling and forecasting; early warning;
- Regional and emerging risks.

3. Use knowledge, innovation and education to build a culture of safety and resilience at all levels.

- Information sharing and cooperation;
- Networks across disciplines and regions; dialogue;
- Use of standard DRR terminology;
- Inclusion of DRR into school curricula, formal and informal education;
- Training and learning on DRR: community level, local authorities, targeted sectors; equal access;
- Research capacity: multi-risk; socio-economic; application;
- Public awareness and media.

4. Reduce the underlying risk factors.

- Sustainable ecosystems and environmental management;
- DRR strategies integrated with climate change adaptation;
- Food security for resilience;
- DRR integrated into health sector and safe hospitals;
- Protection of critical public facilities;
- Recovery schemes and social safety-nets;
- Vulnerability reduction with diversified income options;
- Financial risk-sharing mechanisms;
- Public-private partnership;
- Land use planning and building codes;
- Rural development plans and DRR.

5. Strengthen disaster preparedness for effective response at all levels.

- Disaster management capacities: policy, technical and institutional capacities;
- Dialogue, coordination and information exchange between disaster managers and development sectors;
- Regional approaches to disaster response, with risk reduction focus;
- Review and exercise preparedness and contingency plans;
- Emergency funds;
- Voluntarism and participation.

Cross Cutting Issues

Multi-hazard approach

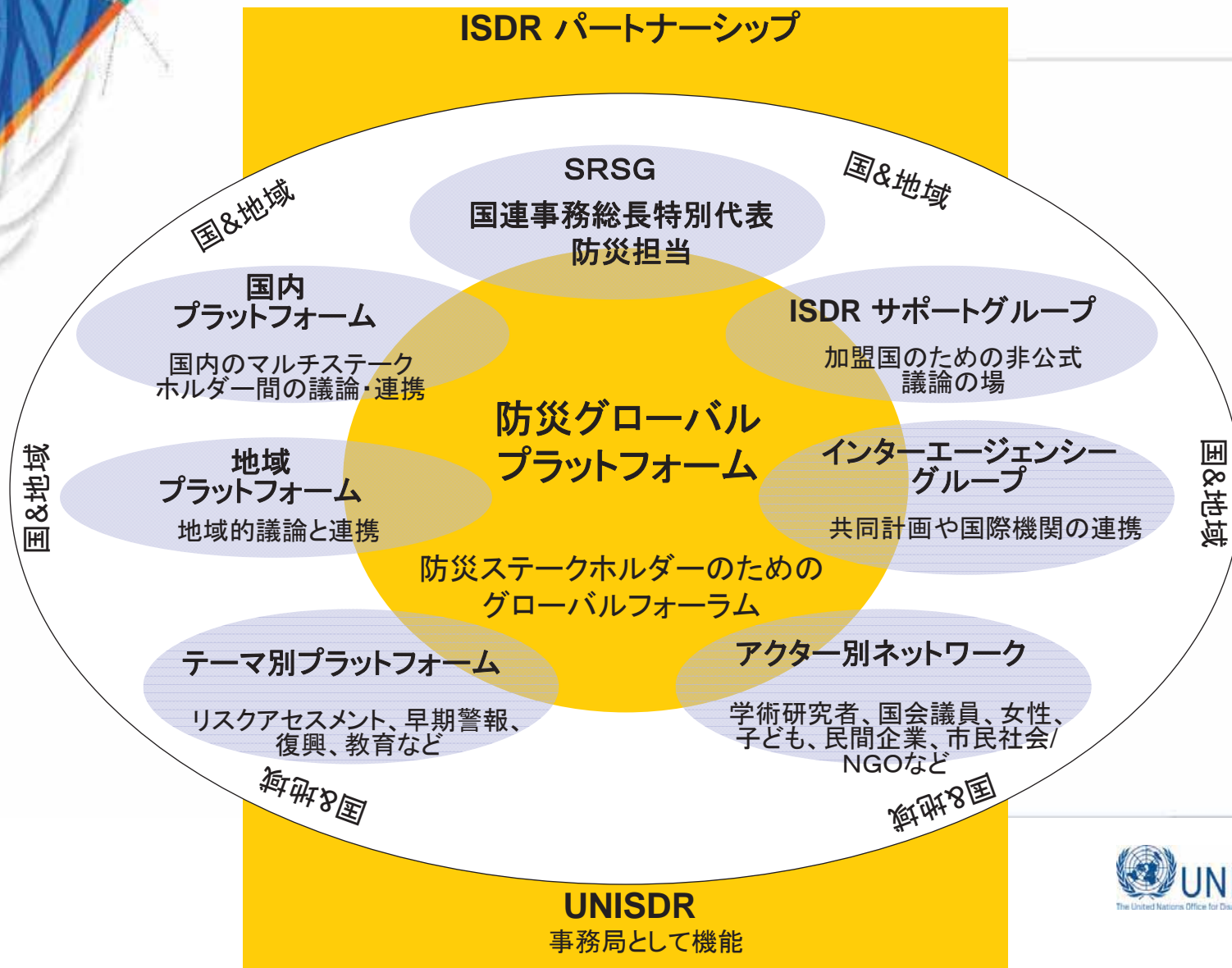
Gender perspective and cultural diversity

Community and volunteers participation

Capacity building & technology transfer

兵庫行動枠組実施を支援する

ISDRパートナーシップの主な構成要素



HFA実施進捗モニタリング

HFA実施国内報告書（2年サイクル）

2007 - 2009年 サイクル

2009 - 2011年 サイクル

2011 - 2013年 サイクル

合計 146カ国が少なくとも1サイクル以上に参加

地域別プラットフォームやテーマ別プラットフォームなどパートナーシップを通じた各地域・分野の実施状況の分析・報告書の作成



国連防災白書 (Global Assessment Report on DRR) (2年サイクル)

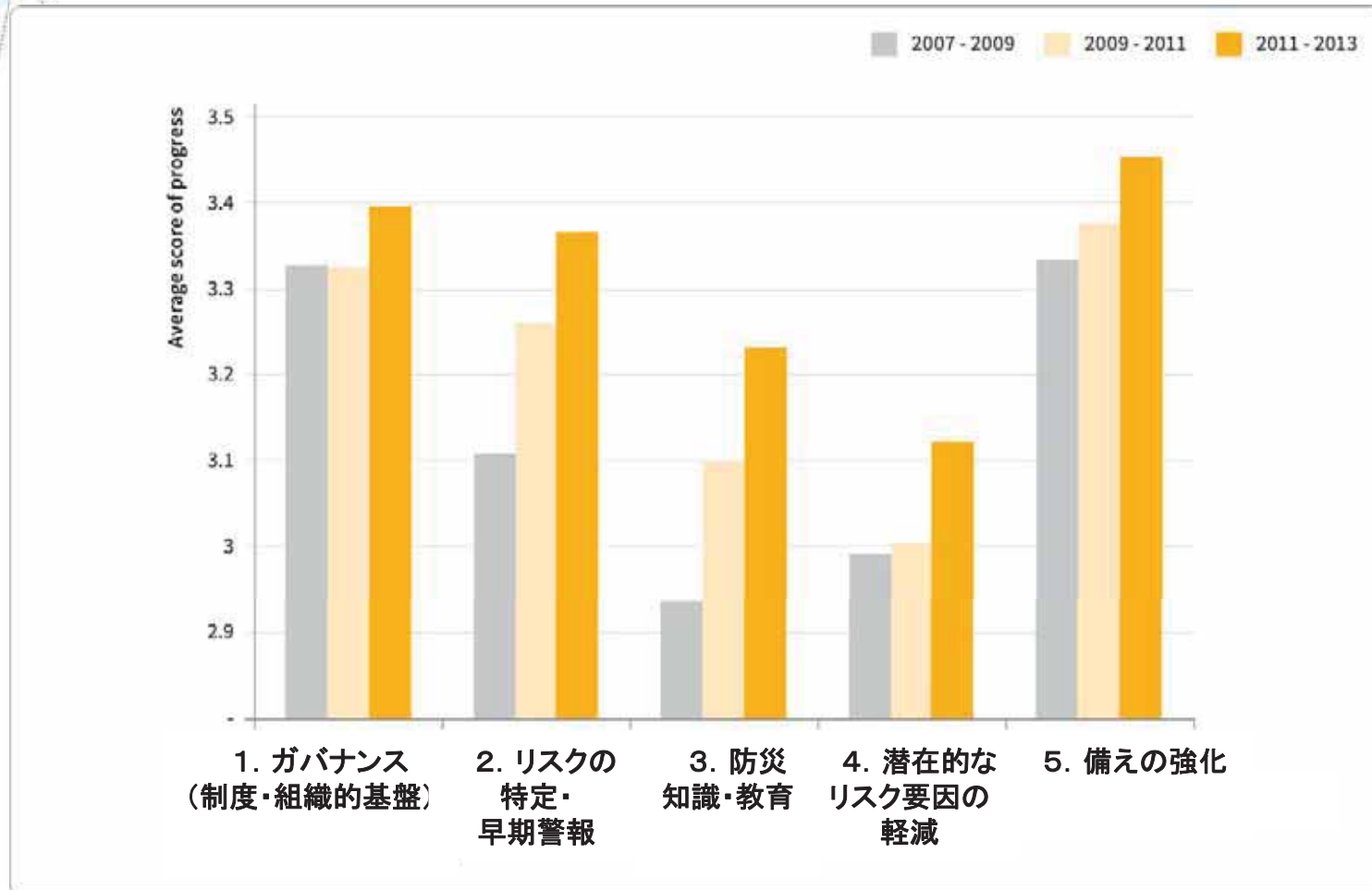
国内報告書・地域・テーマ別報告書など分析し、兵庫行動枠組の達成に向けた取り組み状況を評価する。

グローバルプラットフォーム（2年サイクル）

国連総会への事務総長報告書（毎年）

HFA中間レビュー（採択5年目の2010－2011年）

HFA実施進捗状況 - 5つの優先行動 (国内進捗報告書の分析)





III HFAとジェンダー分野



兵庫行動枠組(HFA)におけるジェンダーに関する言及

III. 優先行動 2005-2015

- 優先行動1: ガバナンス(制度的基盤)
- 優先行動2: 災害リスクの特定・早期警報
- 優先行動3: 防災知識・教育
- 優先行動4: 潜在的なリスク要因を軽減
- 優先行動5: 効果的な対応のための備え、事前準備の強化

A. 一般的考慮事項

- d. リスク評価、早期警戒、情報管理、教育・トレーニングに関連したあらゆる災害リスク管理政策、計画、意思決定過程にジェンダーに基づいた考え方を取り入れることが必要である。



兵庫行動枠組(HFA)におけるジェンダーに関する言及

優先行動2: 災害リスクの特定、評価、監視と早期警戒を強化する

主要な活動:

(ii) 早期警戒

- (d) 対象者の人口統計、ジェンダー、文化、生活基盤に関する特徴を考慮した上で、人を中心としたシステム、とりわけ、リスクにさらされている人々にも時期を得てわかりやすい早期警戒システムを開発する。
それはまた、警報が発令された際の行動のとり方についての指針を含み、災害管理担当者や他の意思決定者による効果的な運用を支援するものでなければならない。

優先行動3: 全てのレベルにおいて安全で災害に強い文化を構築するために、 知識、技術革新、教育を利用する

主要な活動:

(ii) 教育とトレーニング

- (m) 女性などの脆弱な人々に対し、適切なトレーニングや教育機会への平等なアクセスを確保する。
災害リスク軽減に関する教育やトレーニングを不可欠な要素として、ジェンダーや文化的問題に配慮したトレーニングを促進する。

防災グローバルプラットフォーム 2013

172カ国3500名以上がグローバルプラットフォーム2013に参加

170のイベント開催

多様なステークホルダーが参加



政府: 説明責任を果たし、国内防災政策の調整を行い、防災対策への予算を確保する。

市長・首長: “災害に強い都市の構築”キャンペーンへの参加。リスク評価、実用化、インフラ、教育など防災分野への具体的活動及び投資

国会議員: 国家及び地方レベルにおける防災政策立案と実行、財政及び計画策定省庁の意識啓発

民間セクター: 実地的な防災・減災に対する持続可能かつ常識的な解決策を探求する役割の増大

学術研究機関: 研究結果・防災の有益性、効果の証拠の提供、リスク評価、方法、技術開発

女性 **若者**
子ども **高齢者**
障害者

弱者としてのみではなく、変革への新たな主体となり、コミュニティの参画を推進する

NGO及び市民社会組織:

多角的な観点からの意見を促進、周囲への働きかけと積極的な関与

コミュニティ団体:

コミュニティの意見を促進、周囲への働きかけと積極的な関与



防災グローバルプラットフォーム 2013 ジェンダーに関連した主なイベント

メイン・セッションの一つとして:

「HFA 2 - 変革者としての女性」

展示:

「ジェンダーと災害ネットワーク」

発表ステージ:

「南アジアでの女性を包摂する防災に向けた政治的コミットメント構築に関する経験とラテンアメリカおよびアフリカにおける類似的取り組み」



セッション「HFA 2 – 変革者としての女性」から HFA2 にむけた提言

- 草の根レベルで活動する女性団体を、災害に強いコミュニティの構築にむけた取り組みにおける原動力とみなす。
- あらゆるレベルにおいて女性の貢献を正式なものとして認識する。
- レジリエンス構築を目指す防災において、社会的側面およびジェンダーに関する体系的分析を包含し、また人権に配慮したアプローチを適用できるよう、性別および年齢別データの体系的収集およびその利用を促進し向上させる。
- 男女の差異を踏まえた平等に基づき、2015年以降の防災アジェンダを再定義し、防災に関する男女の平等な参加と意義のある取り組みを可能とするような機会を促進する。
- 防災、生物多様性、および気候変動適応に関するそれぞれの枠組を統合する総体的アプローチに基づいたHFA2を策定する。
- 女性の最大限の可能性が認識されるよう、女性リーダーの参画や女性によるリーダーシップを促進する。



防災グローバルプラットフォーム 2013 議長総括におけるジェンダーに関する言及

コミュニティーの参画による効果:

- 文化的な配慮、インクルーシブ(包摂性)、参画、エンパワメントの原則に基づいたアプローチは、レジリエンス構築において持続的な影響を持つ手段である。
- 女性は災害に強い社会構築のための原動力である

第5回アジア防災閣僚会議

- 隔年でUNISDRの地域プロセスとして開催
- 2012年10月22日～25日 インドネシア、ジャカルタにて開催
- インドネシア政府が(BNPB主導のもと)UNISDRと共同で開催



参加国 72カ国

登録参加者 約 2600人

会議の概要と成果(1)

- 会議を通じ参加国政府やステークホルダーグループがジョグジャカルタ宣言を協議、合意し採択された。
- 11のステークホルダーグループが会議に参加し、活動や提言を発表。11のグループによる防災・減災へのコミットメント・ステートメントがジョグジャカルタ宣言の付属文書として作成された。

- 国会議員
- 市長、首長および地方政府
- 子どもを中心とした団体組織、子ども、若者
- 障害をもつ人々や関連団体組織
- ジェンダーに関心を持つ個人や団体組織
- 市民社会組織
- メディア
- 学術研究機関
- 赤十字赤新月社連盟
- 民間セクター

会議の概要と成果(2)

「ジョグジャカルタ宣言」は以下の事項を特に強調する:

- 地域レベルの災害リスク軽減および気候変動適応を開発計画へ統合する
- 地域レベルのリスク評価
- 地域レベルのリスクガバナンス及びパートナーシップの強化
- 災害に強い地域コミュニティの構築
- 潜在的なリスク要因の軽減
- マルチハザード・アプローチや、社会経済的脆弱性および自然ハザードへの曝露の程度を考慮した、HFAの分野横断的な問題への実践的取り組み



Annex4-

ジェンダーに関心を持つ個人や団体組織による提言

以下の事項が強調された:

- 男女において災害への脆弱性の様相は異なり、これは防災に関する枠組において考慮されるべきである。
- 意識、責任および説明責任、能力や資源の不足などにより、防災に関する枠組はジェンダーに関する問題を十分に反映していない。
- ジェンダー問題を包摂した防災に向けた優良事例に関する専門知識やツールが必要である。
- 2015年以降の防災に関する国際的な枠組の議論に反映させるため、ジェンダー問題に配慮した防災への取り組みを阻んでいる問題や課題の特定が必要である。
- 女性に対して、能力強化および意見やアイデアを共有するための平等な機会を保障する

HFA実施国内報告書の分析(ジェンダー関連)

HFA実施国内報告書
2007－2013の3サイクル分析
(2013年UNISDR発行の報告書から)



- 防災・減災対策において、ジェンダーの視点を取り入れることの重要性への認識が強まりつつあり、意識の高まりが見られる。報告される具体的対策や手段も増加など一定の評価。
- しかし、HFA実施に関しては多くの分野で進捗が見られるなかで、ジェンダーに関する分野は各国でもっとも進捗が遅い分野と指摘。



IV 国際防災の日

<http://www.unisdr.org/2012/iddr/>

step
UP **Women ♀ Girls**
The InVisible Force of Resilience
13 October 2012 - International Day for Disaster Reduction



「国際防災の日」～10月13日～

- 人々及びコミュニティが、災害に対してどのようにリスクの軽減に取り組んでいるか、また防災の重要性について、どのように意識高揚を行っているかを伝える。
- 災害により強いコミュニティ及び国の構築に向けた取り組みに、全ての市民及び政府の参加を促進する。
- 「国際防災の日」は国連総会の承認のもと、1989年より開始された。
- 国連総会は、災害予防、軽減及び備えを含む、地球規模の防災文化を促進する手段として「国際防災の日」を認識している。

「災害への脆弱性が、(災害からの)回復力以上に急速に高まっている。[...] 防災は、全ての人々にとって日常の事柄であるべきである。より安全な明日のために今こそ防災投資を。」

～潘基文国連事務総長～

2011年のテーマ： 子ども

2012年のテーマ： 女性

2013年のテーマ： 障害者



<http://www.unisdr.org/we/campaign/iddr>



「2012年国際防災の日」テーマ

“女性と少女たち – レジリエンスのための目に見える(みえない)力”

「2012年国際防災の日」は、災害及び気候リスクに対し、より災害に強い(レジリエンス)コミュニティを構築し、それにより開発投資による成果を獲得、保護することに貢献している、何百万もの女性及び少女たちの力について認識を高めることを目的としている。

「2012年国際防災の日」は、

1. 女性及び少女が、災害の前後及び災害の状況下において、多くの貢献をしていることを伝える。
2. 女性及び少女の貢献は、防災・災害管理の活動への参加や意思決定プロセスから除外されたり、ジェンダー差別に対する乏しい理解により、妨げられることを強調する。
3. 女性及び少女に対する「被害者」「脆弱な存在」としてのみの認識を変革する。
4. 女性及び少女による具体的な取り組み及びイニシアチブを紹介する。

<http://www.unisdr.org/2012/iddr/>



**step
UP Women ♀ Girls**
The InVisible Force of Resilience
13 October 2012 - International Day for Disaster Reduction

「2012年国際防災の日」テーマ

- 女性及び少女は、変革を実現できる力強い行動主体である。女性及び少女は、災害リスクへの取り組み又は災害管理において重要である知識及びスキルを所有している。
- 女性及び少女は、自分の未来、また家族及びコミュニティの未来を形成するであろう貧困削減、気候変動への適応及び防災に参加しなければならない。
- 女性及び少女は、災害へのレジリエンス、災害からの回復力の柱である。女性及び少女は、家族に対し災害への備えを促し、災害後は、コミュニティ再建の役割を担う。



防災・減災に向けたレジリエンスのための 取り組みに関するヒーローたち



ヒロコ ムラタ氏は、2011年3月の震災で事業及び家を失い、また夫も亡くした。

今日、ムラタ氏は、南三陸町で有名なワカメ加工の復活に向け、400人もの女性を組織している。

ムラタ氏はこれまでの人生において、南三陸町で有力な漁業協同組合のただ一人の女性役員である等、数々の業績がある。

NGOマーシーコープ (Mercy Corps) 及びピースウィンズ・ジャパン (Peace Winds Japan) の助けを借り、またウォルマート (Walmart) の手厚い支援により、ムラタ氏は、コミュニティ再建を目指している。

(写真: Sylvia Ross/Mercy Corps)

防災・減災に向けたレジリエンスのための 取り組みに関するヒーローたち



(写真: UN Women/
Oisika Chakrabarti)

Chaluay Kawaonag氏は、
28の近隣コミュニティのリーダーグループと
ともに活動している。
コミュニティのリーダーの多くが女性。
2011年のタイ洪水で取り残された何千もの
外部からの人々やその地域で暮らす
3,050世帯のための食事及び配給に係る
デイリープランの作成に向け取り組みを行った。

洪水は再度起こりうると認識し、Chaluay
Kawaonag氏及びコミュニティリーダーの
委員会は、現在、政府貸付を通じ、家屋の
床の底上げ等、緊急の修復を実施するように
人々の教育に取り組んでいる。

防災・減災に向けたレジリエンスのための 取り組みに関するヒーローたち



(Orissan women meet in an open forum. *Marianne Lemvig, DanChurchAid*)

オリッサ州(インド)の女性は、ホームレスの人々のための家屋の建設、コミュニティ・キッチン¹の運営、医療救援及び応急処置の実施、苦しんでいる人々の救援に向け、自助グループを通じて取り組んでいる。

災害シーズン以外には、コミュニティヘルパーは、伝染病、栄養価の高い地域食料、コミュニティが利用可能な様々な水源についての詳細図なども作成している。

さらに、女性建設作業員は、巨大なサイクロンにも強い建物及び低コストな住居のための「ラット・トラップ」²デザインの訓練を受けている。

防災・減災に向けたレジエンスのための 取り組みに関するヒーローたち

～災害、貧困及び社会的疎外を乗り越える～

NPO法人インクルいわては、東北の被災地で活動するため、2012年夏に発足した。

家族構成に係らず、あらゆる人々が生活を営み、夢を実現できる参加型社会の実現を目的とし、特に母子家庭を支援する非営利組織である。



NPO法人インクルいわては、生活の再建において大きなプレッシャーを抱えているシングルマザーに活力を与える。精神的及び实际的なニーズの実現や自尊心の保持に向け、訓練されたサポーターネットワークが、継続的に一人一人のシングルマザーと共に取り組むことが強みである。

(NPO法人インクルいわてで支援を受けているシングルマザー。
写真 & ソース: ジェンダー・アクション・プラットフォーム)

防災と女性の役割に関する懇談会

- 2012年10月11日 兵庫県神戸市にて開催
- 国連国際防災の日 関連事業として実施
- 防災におけるジェンダー平等の視点を女性専門家たちが提唱

“意志決定や計画プロセスに女性を包摂せず、むしろ疎外する世界中の慣習こそが、不平等を深め、災害に強いコミュニティの構築や維持を阻害している。”

<http://www.unisdr.org/archive/29136>



- マルガレータ・ワルストロム 国連事務総長特別代表(防災担当)
清原桂子氏 (公財)ひょうご21震災記念21席研究機構副理事長
堂本暁子氏 男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表、
元千葉県知事
原ひろこ氏 女性と健康ネットワーク副代表
正井 礼子氏 Women's Net 神戸 代表
目黒依子氏 ジェンダー・アクション・プラットフォーム代表
武川恵子氏 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)
近藤民代氏 神戸大学准教授、阪神・淡路大震災記念 人と防災
未来センターリサーチフェロー
齊藤容子氏 阪神・淡路大震災震災記念 人と防災未来センター
研究員

東日本大震災の経験を国際社会へ共有

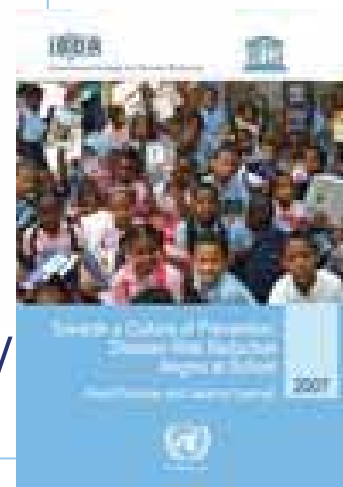
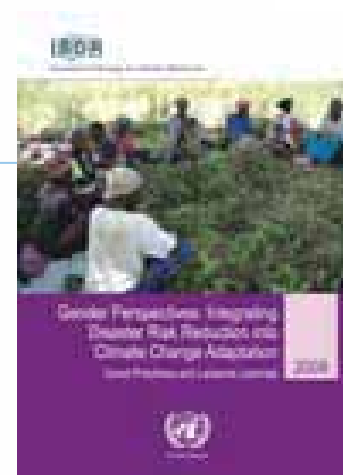
- ▶ 第3回、第4回防災グローバル・プラットフォーム会合
(2011年5月、2013年5月 ジュネーブにて開催)
 - 多くの日本の機関及び専門家が参加
- ▶ 日本政府・関係機関と、共通課題、教訓、優良事例を共有することで、今後の国際的な防災政策・協力推進に関する協議・対話を継続



UNISDR優良事例集

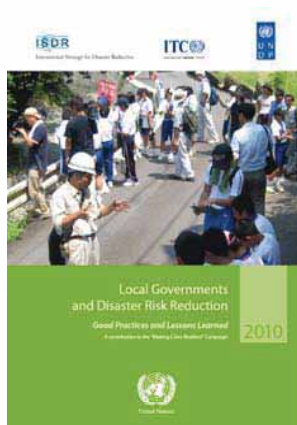
UNISDRではHFA実施に関して、防災分野でのいろいろなテーマ別の優良事例集を発行。

- ❖ **防災と教育:**
「予防文化の構築に向けて:防災は学校から始まる」
- ❖ **防災国内委員会:**
「災害に強い国に向けて」
- ❖ **防災におけるNGOの役割:**
「災害に強いコミュニティの構築」
- ❖ **防災とジェンダー:**
「ジェンダーの視点から:気候変動適応に防災を取り入れる」
「ジェンダーの視点から: 防災への取り組み」



UNISDR優良事例集

- ❖ **防災と復興(IRP):**
「災害復興から学ぶ: 政策決定者のためのガイダンス」
- ❖ **防災と貧困削減:**
「防災と貧困削減に向けて」
- ❖ **防災と伝統的知識:**
「防災のための伝統的知識の活用」
- ❖ **防災と官民パートナーシップ:**
「防災のための民間セクターによる活動」
- ❖ **防災と地方自治体**
「地方自治体と防災」





V 国連防災世界会議 2015



国連防災世界会議 2015



第67回(2012年)国連総会決議 (67/209)において
国連防災世界会議が2015年に日本で開催されることが決定。

- ✓10年間のHFA実施の評価
- ✓2015年以降の防災に関する枠組を採択

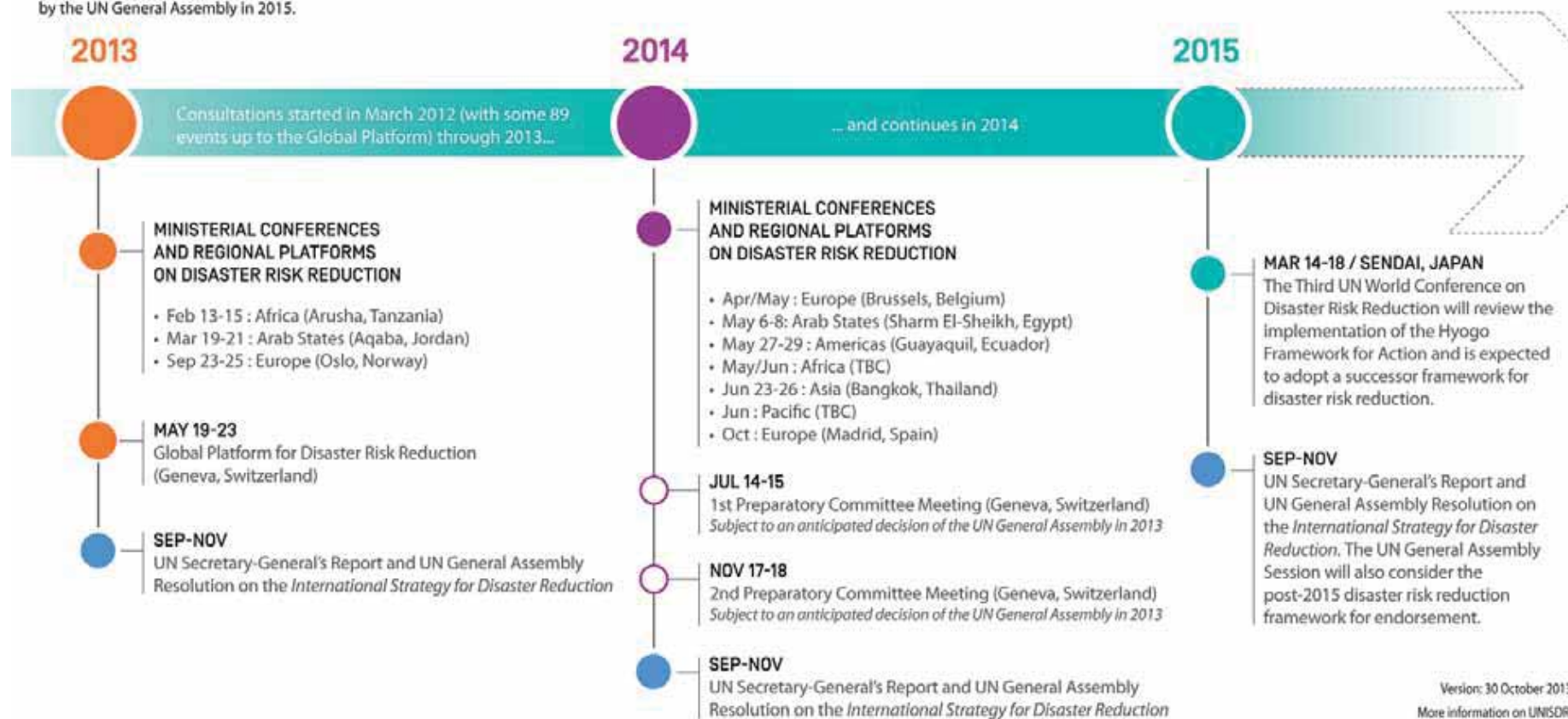
UNISDRが国連防災世界会議の事務局を務め、2015年以降の防災に関する
枠組策定に向けたプロセスを担当することが同決議により決定。

開催地及び開催日程は第68回(2013年)国連総会決議において正式決定(12月)

Towards a post-2015 DRR Framework

- Requested by the UN General Assembly Resolution A/RES/66/199
- UNISDR is facilitating a multistakeholder consultation process and engages a full range of actors from Member States to civil society.
- Consultation events include the Global and Regional Platforms, national and local events, and targeted events of stakeholders, partners and networks.
- Builds on the *International Framework for the International Decade for Natural Disaster Reduction of 1989*, the *Yokohama Strategy and Plan of Action of 1994*, the *International Strategy for Disaster Reduction of 1999*, the *Hyogo Framework for Action 2005-2015: Building the Resilience of Nations and Communities to Disasters (HFA)*, and the *Mid-Term Review of the HFA (2010-2011)*.
- Expected to be adopted at the Third UN World Conference on Disaster Risk Reduction and endorsed by the UN General Assembly in 2015.

HFAを継承する2015年以降の 国際的な防災枠組策定に向けて





ご静聴ありがとうございました

国連国際防災戦略事務局

**United Nations International Strategy for
Disaster Reduction (UNISDR)**

www.unisdr.org
www.preventionweb.net